

空き家を活用した人口減少対策

広島修道大学

1. 事業目的

安芸太田町は人口減少が顕著であり、人口減少率は県内2位の10.8%、また空き家率も大変高くなっている。これらの安芸太田町の地域課題に着目し、2021年度から活動を継続している。今年度は、「空き家を活用しながら地域コミュニティを醸成すること」が人口減少対策につながるのではないかという仮説を持って活動した。期待できる効果としては、①空き家活用案の提案②安芸太田町にある空き家バンク制度の活用③Uターン等につながるコミュニティの醸成④事業に携わった学生自身の安芸太田町や中山間地域への興味関心の醸成の4つがある。さらに活動を通して実践的検証をすることにより、より実現性と説得力の高い仮説へ再度ブラッシュアップされることが期待される。

2. 実施内容

今年度まず検討したのは、既存の物件（空き家）をDIYでリノベーションし、活用することである。仮説の検証のためコミュニティカフェを試験的に実施する候補地を複数箇所見学し、安芸太田町の関係機関との協議を行った。しかし、空き家をリノベーションするにあたり、法的な手続きの煩雑さや学生が主体的に行う本事業の取り組みへの理解や信頼をすぐに得るのが難しい等の課題が見つかった。これにより、今年度は建物の改修を伴わない形で、コミュニティカフェを複数回実施することで実績を積み上げることとした。安芸太田町内にある既存の施設を活用して、複数回・複数箇所でコミュニティカフェを実施することにより、場所による違い、必要な空間や設備、コミュニティ醸成プロセスなどを検証することを目的とし活動を行った。

以下学生からの報告書より抜粋し活動日毎の内容を記載する。

(1) コミュニティカフェ候補地見学（2022年10月28日）

仮説の検証のためコミュニティカフェを試験的に実施する候補地を複数箇所見学した。利用者の対象を絞ることの方が重要であり、空き家をリノベーションするのではなく、家具のような簡単な設えを組み込むことでコミュニティスペースを作るというアイデアも出た。加計商店街では空き家が改修され始めている様子や、新築オープンする店舗もあり、現地調査にて安芸太田町の現状を確認することができた。

(2) 現地での打ち合わせ①（2022年11月29日）

現地にてコミュニティカフェの仮実施（試行）に向けての打ち合わせを行った。現地で打ち合わせを行うことにより、机などの配置や装飾のアイデアが多数浮かび、実施案等をまとめることができた。（コミュニティカフェのプログラム・会場レイアウト・装飾案・役割分担・次回日程調整等）

(3) 現地での打ち合わせ②・会場設営 (2022年12月6日)

コミュニティカフェの打ち合わせおよび会場の掃除・準備のリストアップ・設営を一部行った。併せて、地域の社会福祉協議会の関係者にお会いし、コミュニティカフェ実施の宣伝協力を依頼した。依頼をしたことにより、地域から必要とされている取り組みであることを実感することができ、より具体的な開催イメージに繋がった。

(4) コミュニティカフェ会場設営 (2022年12月13日)

実際に現地に行き、12月17日に実施する第1回目のコミュニティカフェ試行に向けて準備を行った。装飾や会場設営など先にできることを実施した。季節に合わせた装飾とすることで、実施当日まで設営のまま置いておく許可をいただき、準備および当日に向けての細かな打ち合わせと調整を行った。



打ち合わせの様子・季節（クリスマス時期）に合わせた装飾

(5) 第1回ママカフェ実施 (2022年12月17日)

現地到着と同時に残っていた会場準備を行い、ママカフェを仮実施した。9名の参加者があり、参加者から感想のヒアリングすることができた。これにより、子育て世代のコミュニティの様子がわかったこと、コミュニティカフェと施設利用（場合によっては空き家利用）との相性を検証することができた。



筒賀ふれあい農園ありんこで行ったママカフェの様子

(6) 第2回ママカフェ実施 (2023年1月15日)

第2回目のママカフェの試行を行い、3組にご来場いただいた。子育て世代（特に親世代）のコミュニティの醸成とそれに必要な空間要素の検証を目的とし、宣伝告知の経路変更や、親と子供に一定距離をあけてみることを試みた。（ただし、しばらくの間は可能であったが子どもがすぐに飽きる兆候があった。）実施し振り返りを行なった結果、①子供たちは体を動かせるくらいの余裕のある広さが必要ではないか②子供たちと親の空間の違いを出す工夫が必要ではないか③親の空間は地域のストーリー（地域特性）を感じることができるコンテンツや家具があれば話題につながるのではないかといい気づきを得ることができた。

(7) コミュニティカフェ実施場所の視察 (2023年1月17日)

第1・2回目に実施したコミュニティカフェの場所を変更し試行するため、実施予定の会場を視察し、設備や空間のサイズ、当日の作業等を確認した。現地の備品を確認する中で新たなアイデアが生まれ採用することとし、加えて加計商店街付近を散策し、付近の変化や様子を伺うことができた。

(8) 第3回ママカフェの試行 (2023年1月29日)

前回（筒賀ありんこ農園）と場所を変更し、太田川交流会館かけはしにて第3回目のママカフェを試行した。第1・2回目までの気づきを活かし、スリッパ卓球・ゲームなどのこれまでとは異なるコンテンツを用意した。この日実施した場所はアクセスとしては良い場所であるが、観光の途中で立ち寄る場所として認知されていることから、参加者全員が安芸太田町外からの方であった。このことから、安芸太田町に住む地元の方が参加しやすい場所の選定の必要性を感じると共に、対象属性を絞らない実施方法も検討する必要があるという気づきを得た。



太田川交流会館かけはしで行った第3回目のママカフェの様子



第3回目ママカフェの宣伝チラシ

以上の現地視察および試行を繰り返して、コミュニティカフェの効果等の検証を行った。

3. 事業実施による成果・効果

事業開始当初は空き家に改修工事の伴うリノベーションを行い利活用する計画を立て活動していたが、主体となって動く学生たちが、多様な関係者と協議する中で様々な事由によりリノベーションを実施することが難しいという壁に早い段階で当たることとなった。そこでまずは実績づくりとして、実施する予定だったコンテンツであるコミュニティカフェの効果を実践的に検証することとした。

結果として、今年度のコミュニティカフェの効果検証を通して人口減少対策における新たな気づきを得られた。学生の気づきとしては、①対象を拡げる（参加者の属性の多様性を上げること）②場所選定の重要性③既存のコミュニティや来訪者同士に対するアプローチ方法の3点が挙げられた。

検証と実践を繰り返す中でコミュニティカフェの利用対象者はあくまで地域の方々であり、即ち、イベントの利用者が多ければ良いとは限らない。ただ単に参加者数を増やすことではなく、安芸太田町内の多様なカテゴリーの参加者が増えることにより、多様性のあるコミュニティを創ることができ、人口減少対策につながると考察した。また、多様性を醸成しながらも、参加しやすい場所を選定することにより地元に着目したコミュニティ空間を創り上げることで、安芸太田町での空き家対策と人口減少対策の相乗効果を高めることに繋がることの考察となった。

さらに、安芸太田町ですでに創られている既存のコミュニティ同士を繋げる（ママカフェであれば親同士をつなげる）も効果的な手法の一つであると考えた。学生たちは、ママカフェを実施する中で親同士がコミュニケーションを取ることが少なかった気づきから、既存のコミュニティ同士のつなぎ役を学生が担うことが大切であると感じたようである。

今年度の検証から①空き家のリノベーションや家具設置による場づくり（現在簡易にできる方法や家具を検討中）②普段からよく使われている公共施設ではなく地域の方が気軽に立ち寄れる遊休施設などの活用の2点による「多様な形のコミュニティカフェ」を実施することが、人口減少対策に効果があるのではないかという新たな仮説を立てることができた。今年度の活動を通して得られた気づきと実績から、これまでの人口減少対策の深化に資するものとなるのではないかと考える。

また学生自身も序盤で立ちちはだかった壁を乗り越えるように試行錯誤しながら取り組んだことにより、長期的な目標に対して今現在できることをしっかり考えて実践できるように成長したと考えられる。また学生のできることを考えることにより、主体性も高まったと考えられる。来年度以降も引き続き人口減少対策の仮説を実践的に検証していくことに期待する。

